

## 小金井市市民参加推進会議（第55回）次第

日時 平成31年2月15日（金）午後7時から

場所 前原暫定集会施設1階A会議室

### 1 開 会

### 2 市民参加条例運用状況等について

- (1) 今期の提言に向けて
- (2) 次回推進会議の日程について

### 3 閉 会

#### ■配布資料

資料1 第7期小金井市市民参加推進会議提言（たたき台）

資料2 ワークショップ「こが☆カフェ」ファシリテーター感想（要旨抜粋）

資料3 第7期推進会議工程表

ワークショップ「こが☆カフェ」ファシリテーター感想（要旨抜粋）

□ワークショップの形式について

- ・市民の方が小金井をどう思っているのかを気軽に話せるようにワールドカフェという形で行い、楽しく話してくれてよかった。
- ・小金井の未来について深く考え、その意見を市に伝えたい方には、ワールドカフェ方式では物足りない部分があったと思う。
- ・ワールドカフェは様々な人が意見を言えるという利点があり、多方面からの視点から小金井の未来について考えることができた。
- ・市の政策を決めるためにより詰めた意見が必要なら、ワールドカフェ以外の方法でもできるのではないかと感じた。
- ・ワールドカフェはどんな考えや意見も否定せずに色々な話をひたすらに広げていくという”発散”のワークショップ手法だが、市の計画に反映させる段階にまで意見や考えを集約・洗練させていくのは難しい面もあると思う。

□ワークショップの進め方

- ・話を共有しあうだけでなく、それぞれが持つアイデアや思いを実現するためのステップも必要だと感じた。
- ・大学生が司会をやることによって、暖かい応援ムードだったのが良かった。雰囲気づくりが意見の出る出ないに大きな影響を与える。
- ・リハーサルの際に「理想の小金井のまちの姿」という問いを出したときは、建築やハードの議論に終始していたが、本番で「今よりも暮らしやすいまち小金井」にしたら、幅広いソフトの面まで議論ができた。問いの立て方が重要だなと感じた。
- ・市民の人からの様々な意見を大きく取り入れる、考えてもらう機会としてはよかった。

□参加者について

- ・市民の皆さんの熱量が高く話が尽きず、良いイベントを作ることができた。
- ・市民の皆さんの、小金井をより良い街にしたいという大変熱い思いを感じた。
- ・ワールドカフェを初めて経験する方が多く、全体の人数も多かった。

□その他全般

- ・こういうことがしたい、という思いに対して賛同する人が生まれるような、また一緒に企画を考えられる会ができると一人一人の行動につながるかと思う。
- ・自分の地域について考えている人がいるのだなと思い、ファシリテーションのやりがいがあった。

(職員ファシリテーターからの意見抜粋)

- ・学生さんと一緒にできたことで場の雰囲気が柔らかく明るかった。
- ・年代、男女、国籍も様々で、色々な人と交流・意見交換することができた。
- ・在住期間が1年未満から60年以上経つ方、年齢も幅広い方々から色々な意見を聞くことができた。
- ・人によって理想のまちは本当に様々で、それぞれの立場から考える理想のまちについての考えを聞くことができる貴重な機会だった。
- ・参加された方々は、それぞれ違った意見だったが、しっかりとした意見をお持ちで非常に驚いた。

第7期小金井市市民参加推進会議提言（たたき台）

## 「若者の市政参加を進めるための方策について」

### 1 はじめに

第7期小金井市市民参加推進会議（以下「第7期推進会議」という。）では、平成30年1月から（新元号）元年5月までに7回の会合をもった。この間の議論を通じ、小金井市政（以下「市政」という。）における若者の市政参加をより一層推進するため、以下のとおり〇〇〇についての提言をすることとした。

小金井市（以下「市」という。）においては、本提案を基礎として〇〇〇の実施に向けた検討を進め、早期に実現可能な方策を企画立案されたい。

### 2 これまでの経緯

市では、これまで附属機関等への市民参加を促進するため、公募による市民参加の手法を整備するとともに、無作為抽出の活用など、市民の市政参加機会を拡充してきたところである。一方、附属機関等への参加は、高齢者層が中心であることを受け、第5期小金井市市民参加推進会議では、「若者の市民参加」に焦点を当て、その具体的な手法としてワークショップや若者討議会の実施、市の会議体への若者分科会の設置、第6期推進会議では、ワークショップの運営や広報、フィードバックについての提言を行ったところである。

第7期推進会議では、これらの議論を踏まえ、「若者の市民参加」をさらに進めるために、以下の提言を行う。

### 3 提言

第7期推進会議では、第6期推進会議において提言されたワークショップのあり方を引き継ぎ、ワークショップという市政参加の一形態が市において一般的なものとなり、多くの市民が積極的に参加し討議できるための具体的な手法について提言する。

本会議では、第6期推進会議での提言を引継ぎ、これにより、今後の市政における市民参加の多様な手法の確立を図る一助にするとともに、ワークショップへの参加が今後の市民参加の一層の推進につながることを期待するものである。

ワークショップは、年齢層や性別、職業等にかかわらず多くの市民が参加でき、対等な立場で議論が可能となる市民参加の一手法である。また、いわゆる討論会とは異なり、多様な人々が自由に参加し、共通のテーマについて多角的に議論をすることを通じて、互いに学び合い、アイデアを創発する仕組みでもある。このため、一つの解決策への合意を取り付けるよりも、多様な意見を出し合い、そのメリットやデメリットを互いに理解するような議論の場となることが大切である。

したがって、市民参加のみならず、小金井市職員（以下「市職員」という。）や各種団体等からの積極的な参加も重要となる。このため、第7期推進会議におけるこれまでの議論を踏まえ、ワークショップを市政参加の一形態としてより一般的なものとするために、市は以下の事項に配慮すべきである。

#### （1）参加しやすく議論しやすいワークショップの運営について

- ワorkshopにおける活発な議論のためには、参加しやすく興味をもちやすいテーマの設定、適切なグループ規模の設定、多様な参加者の確保、話しやすい場の雰囲気構築、が求められる。
- 参加しやすく興味をもちやすいテーマ設定は、参加の呼びかけにおいても、実際の議論においても重要である。今後のワークショップの多くが市政の計画策定や事業について議論する場合にも、抽象的あるいは専門的になりすぎないよう配慮する必要がある。
- 適切なグループ規模については、これまでの小金井市でのワークショップの実践を踏まえると、1グループ3～6名の参加者と1名のファシリテーターという規模が望ましい。
- ワorkshopを開催時間のみで完結して考えるのではなく、ワークショップは中長期的により一層の市政参加をうみだす方策であるという観点から、ワークショップ前後の交流機会を増やし、ワークショップをあたらしい地域での関係構築に生かすことが望ましい。
- 多様な参加者の確保については、多様な世代や居住地、属性をもつ人々が同じテーブルに集まり議論をすることで新しいアイデアが生まれ、また、異なる他者への想像力をはぐくむ機会となる。しかし相対的に若年層の参加が乏しいことから、無作為抽出による選定における若年世代のウェイトを増分する、地域内の大学などの教育機関や市民団体等への呼びかけなどの手法を適切に組み合わせながら、若年世代への参加をより積極的に呼びかけるべきである。

#### （以下、検討事項箇条書き）

- 議論を活発にするためのさまざまな「しかけ」や「ノウハウ」の重要性。市職員の服装、ファシリテーターによる誘発
- 開催における空間の広さや雰囲気は戦略的に設定する必要がある。

#### （2）ワークショップの内容をふまえた広報戦略について

- ワorkshopに係る広報については、市報やホームページ、市民団体を通じて、広く市民参加を呼びかける。同時に、設定したテーマを踏まえ、関心が高いと思われる年齢層や地域・団体へ重点的に参加を呼びかけ、市民間の口コミを誘発する等の手法もある。広報媒体としてはポスターやチラシ、郵便、ホームページ、SNS等をテーマごとに使い分けながら活用することが肝要である。

#### （以下、箇条書き）

- WSの結果のより効果的なフィードバックとそのための仕組みづくり

- デザイン性を重視したポスター、WEB 広報 ※先日の WS のまとめ映像などはとてもよい。  
(ただもう少し若者向けにアレンジし、YouTube にアップしてもよいのでは?)
- 即時性のある、また、インタラクティブな広報手法の開発 (FB 利用など?)
- 参加者へのアフターフォローの重要性

※これまでの議論を踏まえ、参加者が参加したことによる意義を感じるとともに、その意義を広報に組み込んでいけるような仕組みについて提言できないか (荒城委員、鴨下委員らの意見)

### (3) 外部の団体との協働

- ワークショップを市政運営において一般化するためには、市がワークショップという手法の有効性を認識した上で、まず導入しやすい制度設計により市職員の経験の場を増やししながら、市職員のファシリテーション能力を向上させることが必要となる。
- そのために外部の団体と協働でワークショップを実施する方法は有効であると考えられる。例えば、地域の団体や学生と協働して開催することは、大きな意義がある。その意義は、①質の高い運営ノウハウを活用できること、②市の単独開催による市職員の負担感や不安感を軽減できること、③飲食物の提供など市の主催では困難な運営が実現できること、が考えられる。
- なお、ワークショップの運営全体を外部委託すると市職員が経験し成長する機会を失うことにもなりかねないため、あくまでも外部団体との協働であることが重要である。
- ワークショップの運営にはいくつもの方法があり、テーマごとに適した方法を選ぶことが必要である。市職員のワークショップにおけるファシリテーション能力の育成はもとより、適切な事業者選定と市と協働してのワークショップ運営をするスキルを市職員が涵養していくことが求められる。
- 特に学生団体が主導するワークショップは、先進的な運営を行う点、若者の市民参加を一層促進する点でも重要な方策と考えられ、継続的な協働をするべきである。

## 4 おわりに

今回の提言は、第7期推進会議では、定例会議とは別に、平成30年12月8日(土)に市の主催で開かれた「こが☆カフェ」に各委員がオブザーバーとして傍聴し、ワークショップ形式による意見交換の場を経験した。「こが☆カフェ」は現在策定中の「第5次基本構想・前期基本計画」の策定に向けて、市民のアイデアや意見を反映させるためのワークショップである。

※各委員の感想を集約して掲載する

※最終的な委員会としての提言の結論を書く

## 第7期推進会議工程表

	(参考) 第6期推進会議行程表		第7期推進会議行程表
1回目(第42回) 平成27年12月22日	委嘱状の交付、正副委員長の互選について、市民参加条例の概要について、推進会議の運営等について、市民参加条例運用状況等について、次回推進会議の開催日について	1回目(第50回) 平成30年1月30日	委嘱状の交付、正副委員長の互選について、市民参加条例の概要について、推進会議の運営等について、市民参加条例運用状況等について、次回推進会議の開催日について
2回目(第43回) 平成28年2月19日	第6期市民参加推進会議の議題について、その他	2回目(第51回) 平成30年3月29日	第7期市民参加推進会議の議題について、その他
3回目(第44回) 平成28年5月27日	各附属機関等団体代表登録状況について、市ワークショップ内容と今後のスケジュール案について、次回推進会議の開催日について、その他	3回目(第52回) 平成30年5月24日	各附属機関設置状況等について、若者の市民参加を推進するための方策について、第1期市民参加推進会議の提言に対する議会回答について、その他
4回目(第45回) 平成28年7月29日	附属機関等委員の市職員等の人数について、市ワークショップに関する意見・提案について、次回推進会議の開催日について	4回目(第53回) 平成30年7月27日	今後の審議について
5回目(第46回) 平成28年11月25日	今後のスケジュールについて、提言の具体的内容の検討について、次回推進会議の開催日について	5回目(第54回) 平成30年10月19日	今期の提言に向けて、市民参加推進会議の今後の流れについて、次回推進会議の日程について
6回目(第47回) 平成29年3月23日	第7期推進会議の委員の募集について、附属機関等の委員募集・選任結果及びパブリックコメントの意見募集・検討結果の市報フォーマットの変更について、提言案の検討について、次回推進会議の開催日について	6回目(第55回) 平成31年2月15日	(提言の検討)
7回目(第48回) 平成29年5月25日	市民参加条例運用状況等について、今後の市民参加推進会議の予定について、提言(案)の検討について、次回推進会議の開催日について	7回目(第56回) 平成31年5月頃	(提言の検討)
8回目(第49回) 平成29年8月4日	提言の受け渡しについて、提言に対する市長意見について、第6期市民参加推進会議のまとめ	8回目(第57回) 平成31年8月頃	(提言に対する市長意見)